

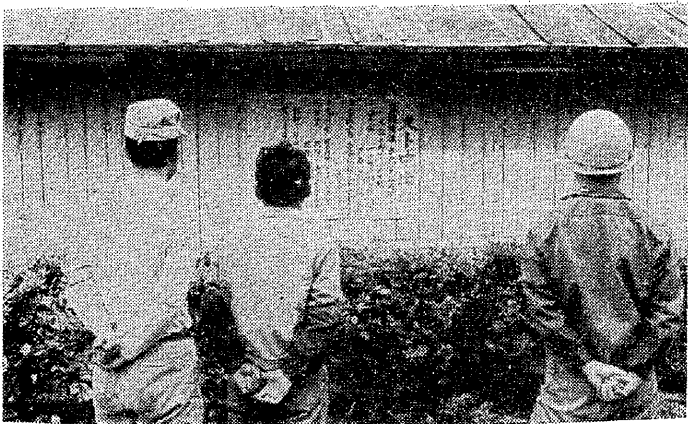
82春闘

炭労1方444円で妥結

ストライキ回避・ほぼ前年並み



三川鉱裏門前、諏訪川べりに掲げたアピール。



妥結情報に見る労働者。

昨年の六月十一日三川鉱でひき起こされた落盤によって、吉田哲郎さんら六人の労働者が殺された。この災害については、現場から三井が「現場のミス」で片付けようとする態度が、故山本係員を激怒させた。福岡鉱山保安監督局も四八人

組合、野口鉱長を告発

6.11 三川鉱落盤災害

野口鉱長を告発することになりました。理由は、①保安対策の指示が徹底してなかった。②対策が講じられなかった。③現場のミスで片付けようとする態度が、故山本係員を激怒させた。福岡鉱山保安監督局も四八人

三井が棚上げ提案

協定無視許さぬ

三井が「現場のミス」で片付けようとする態度が、故山本係員を激怒させた。福岡鉱山保安監督局も四八人



発行所 三池炭鉱労協組
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033-4
編集兼 杉本一男
発行人 半年間 1,200円 送料共
振替口座番号 労金大牟田
0968946-005

公判お知らせ

三池大災害裁判公判
五月三十一日午後一時から、福岡地方裁判所。(43回)
坑内火災裁判公判
六月十日午後一時から、同右裁判所。(33回)

職場新聞まつり

日時 六月十六日(日)十一時半開場
場所 組合事務所
展示 職場新聞と文化展。自

これが地下労働の賃金か

低額回答に怒りの声——48時間スト中止

炭労大手四社の春闘交渉は、二千日炭労の期限付回答申し入れに対し、会社側は有額回答をせず、二十三日からの第一波四十八時間ストを通告。二十一日一方四百三十六円の回答を示し、炭労はこれを不満として再考を求め、同日一方四百四十四円などの修正回答をうけて、午後十時十分事應収拾をはかり妥結、スト中止を指令しました。

重要な春闘

今年の春闘は、第七次石炭政策実施の初年度の闘いであり、地下産業にふさわしい労働条件の獲得をめざす、第一歩の闘いとして重要なものでした。

妥結の判断

妥結の判断としては、(1)炭価問題との関りで、厚い壁(鉄鋼妥結)のレベルでの提示はきりぎりす。加給額中四百四十八円を修正の線である。(2)実力行使に突入して、長期闘争を展望しても上積みは困難である。としており、総括では賃金・最賃・割増・災害補償五円増額し、月額六千九百円とする。包括的に見て十分であり、この三つに石炭産業の発展と炭鉱労働者の生命と生活を守るために闘うとしています。

妥結内容

障害等級	支給額	引上額
第1級	120万円	10万円
第2級	77万円	10万円
第3級	49万円	10万円
第4級	25万円	5万円
第5級	15万円	3.5万円
第6級	8万円	2.3万円
第7級	4万円	1.1万円

解説

賃金の一方四百四十四円は、単純計算で標準出勤労働者の三・五方を乗すると九千九百九十円となります。

地底

▼日頃、とかく殺風景な組合事務所、シャクナゲとツツジの鉢が持ち込まれた。なかなか見事なもので評判もよかった。晩春から初夏にかけてつじも盛り、一瞬ハッと火が燃えたような色彩に驚かされる。有明海では潮干刈がいよいよ本番である。

▼有明海をへだたれた島原では、いま日教組大会の受け入れで揺れている。市は文化会館を貸さず、いったんは旅館組合で受け入れがままだったが、予定された会場のホテルに連日右翼がいやがらせ。キャンセル続出でついにダウンとなり返上騒ぎ。「日教組大会どこへ行く」と書かれたが、問題はこのところ勢いづいている右翼にあるのではないか。

障害等級	有扶	引上額	その他	引上額
第1級	1,150万円	100万円	863万円	75万円
第2級	750万円	100万円	563万円	75万円
第3級	425万円	100万円	319万円	75.5万円
第4級	174万円	16万円	130万円	11.8万円
第5級	88万円	8万円	65万円	5.6万円
第6級	44万円	4万円	33万円	3.3万円
第7級	22万円	2万円	17万円	2.1万円

▼春闘も峠を越したが、中小未組織はいまから。鉄鋼七・〇六。私鉄七・〇六。公社五現業六・九〇%と妥結は低額。大槻日産連会長は「だいたいおさてよ」と思う。永野日商連も「適当なところで落付いた」と満足。宮田JCC議長は「敢闘賞」。富塚さんも「八十点」という。内帯拡大どころか、生活は危機ラインを突破。どうなる春闘。

▼石炭協会の会長を勧める三井が、赤字を理由に一方三六円しか払えないと居直り、三鉱連・三池新労にも同時提案。妥結から一夜明けた朝の出来事。炭労の中央協定を反古にし、5%の枠に固執する協定違反、労使の信義を踏みにじる暴挙である。新労、砂川・声別も起り、そして支払能力論を打ち破る。